

第6学年1組 図画工作科学習指導案

1. 題材名 白い惑星に迷い込んだら… A表現(2) 立体に表す

2. 題材設定の理由

- 本学級では、図画工作科の時間を楽しみにしている子どもが多く、製作活動においてはどの子どもも意欲的に取り組んでいる。1学期の学習では、題材「変身ダンボール」で、水で湿らせたダンボールを紐で縛って固め、偶然できた形を、何かに見立てて色を付け、表現活動を楽しんだ。題材「私のお気に入りの場所」では、気に入った身近な場所を見付け、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえて、絵に表した。題材「墨のうた」では、墨を使って、大きさの違う筆やさまざまな形のローラーや身边材料で思いのままに表現した。子どもたちは、材料を切ったり組み合わせたりして偶然できた形を何かに見立てたり、想像をめぐらせたりして、思いのままに絵や立体に表すことが好きである。一方、70%の子どもが「アイデアが浮かばない。」と考えている。そこで、今回は、身边材料を使って、形の組み合わせ方を考えたり、試したりする活動を通して、表したいものを思い付く力を身につけさせたいと考え、本題材を設定した。
- 本題材では、液体粘土や軽量紙粘土などの特徴を生かして「白い惑星」の世界を表現していく活動を通して、素材の特徴を生かしながら発想を広げることができるようにすると共に、単色で表現することでこれまでとは違うものの形に対する見方を育てることがねらいである。身边材料を液体粘土で固めて立体に表す活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえ、これをもとに自分の表したいイメージをもつことができるようにする。そのために、偶然生まれる形や色から表したいイメージを追求できるように、多種多様な材料を準備し、立体的な構成の工夫が自由に試せるようにする。材料を自由に加工することによって生まれた形、質感の変化が新たな発想源となりうると考える。また、表し方等について友達と考えを出し合う活動の場を設けることで、表現の工夫が深まるようにしたい。

指導に当たっては、5年生のときに題材「でこぼこ広場から思い付いたよ！」で、液体粘土や軽量紙粘土などで作品をつくったことやその軽さや耐久性といった特性などを想起する場をもつ。また、針金でつくった主人公を操作しながら、自分が「白い惑星に迷い込んだら」どのような世界が広がっているのかを考え、構想を深めながら表現を追求していくことができるようにする。

<小中連携の視点から>

本単元は、形の組み合わせ方を考えたり、試したりして、表したい「白い惑星」の世界を思い付くことを通して、試したり、見付けたり、考えたりして、思い付く力を養うものであり、中学校においては、絵・彫刻の題材「彫刻動物園」へとつながっていく。主題などを基に、全体と部分との関係などを考えて作品づくりをする等、この題材で培った力が生かされていくことになる。

3. 指導上の着眼

【着眼1】題材との出合わせ方に重点をおいた学習展開の工夫

- 本題材での導入場面では、造形表現への関心・意欲が高まるように、大きな白い惑星の絵を提示し、もし「白い惑星に迷い込んだら…」どんな世界が広がっているかを想像する場を設け、「白い惑星」のイメージの共有化を図る。さらに、立体的造形表現の発想がふくらむように、自分が

- 「白い惑星」に降り立ったら身の回りにどんな世界が広がっているかということを考えながら、自分に見立てた、針金でつくった主人公を表現しようとする土台の上で操作する活動を設ける。
- 「みつける」段階では、自分のイメージを広げながら、表現したいものを具現化していけるように、「白い惑星に自分が迷い込んだら…」というキーワードから連想することを各自が言葉や絵でウエビングマップやスケッチブックにかく。

【着眼2】子どもの思いを引き出す言語活動

- 子どもの造形的な見方や表し方が高まるように、本時の導入時にミニ鑑賞タイムを設ける。ミニ鑑賞タイムでは、グループごとに前時に表したのを見て、気付いたこと、よいと思ったことを話し合う場をもつ。さらにミニ鑑賞タイムを通して、自分がやってみたい表し方を選択するようになる。なお、製作活動の時間を確保するため、鑑賞タイムはできるだけ短い時間で行う。

【着眼3】育成する資質・能力を明確にした評価と指導

- 表現したいことがうまく見付けられず構想の能力面でつまずきが見られる子どもには、友達が表している様子を見せたり、教師が表し方についての具体的なアドバイスをしたりする。また、表現したいものがあるものの材料の選択や表現方法が分からず、つまずいている子どもには、自分の思いに合う材料を一緒に選んだり、具体的な表現方法についていくつか提示して、自分がやってみたい方法を選択させたりする。
- 材料の特徴をよく生かしながら、自分が思い付いたことを表現できている子どもには、思いをうまく表現できたことの成就感を味わうことができるように、子どもの思いと表現方法をつないで賞賛する。

4. 目標

造形への 関心・意欲・態度	○ 液体粘土や軽量紙粘土などに関心を持ち、楽しみながら自分なりの「白い惑星」での世界を表現しようとする。
発想や構想の能力	○ 液体粘土や軽量紙粘土などの特徴を生かして、自分だけの「白い惑星」での世界の表し方を考えることができる。
創造的な技能	○ 液体粘土や軽量紙粘土などの特徴を生かしながら、工夫して「白い惑星」の世界を表現することができる。
鑑賞の能力	○ 単色（白一色）による表現のよさを味わい、自分や友達の表現の工夫などを認め合うことができる。

5. 指導計画と評価計画（総時数6時間）

	主な学習活動	指導の工夫	評価規準（評価方法）
であう	1. 「白い惑星に自分が迷い込んだら…」どんな世界が広がっているか、についてイメージをもつ。 ②	○ 「白い惑星」の絵を見て、綺麗だな、不思議だな、行ってみたい等自分の世界をつくりたいという思いをもつことができるようにする。 ○ 針金を使って自分に見立てた主人公をつくり、主人公を動かしながら、「白い惑星」のイメージをふくらませる。	【関】「白い惑星」に迷い込んだらということに対して想像を広げながら表現しようとしている。 (行動観察)

み つ け る ・ あ ら わ す	<p>(1) 「白い惑星」のイメージについて全体で話し合う。</p> <p>(2) 簡単なアイデアスケッチをかきながら、表現方法や必要な材料・用具などの構想をもつ。</p> <p>2. それぞれのイメージする「白い惑星」の世界を表現する。③ <2/3本時></p>	<p>○ 子どもが自分のイメージをもつことができるように、ウエビングマップやアイデアスケッチを活用する。</p> <p>○ 構想の段階で、活動に必要な材料・用具を準備するように伝える。</p> <p>○ 発想や構想を高めるために、材料や針金でつくった主人公を動かしたり組み合わせたりする時間を十分にとる。</p> <p>○ 発想をふくらませながら活動できるように、当初、イメージしていたことが変化してよいことを伝える。</p> <p>○ 本時は、前時につくったものを修正したり、新たにつくり足したりして試行錯誤しながら表現を工夫する。</p> <p>○ 液体粘土やアクリル絵の具で白くしてから組み立てても組み立ててから白くしてもよいことを伝える。</p>	<p>【発】 液体粘土や軽量粘土などの特徴を生かして、自分だけの「白い惑星」の表し方を考えている。(行動観察、アイデアスケッチ)</p> <p>【創】 液体粘土や軽量粘土などの特徴を生かしながら、工夫して「白い惑星」の世界を表現している。(行動観察、ワークシート、作品)</p>
あ じ わ う	<p>3. 鑑賞会を開き、互いの作品のよさを見付ける。 ①</p>	<p>○ 互いの作品を鑑賞し合う場を設定し、気付いたことや感じたことなどをワークシートに書く。その際、「液体粘土や軽量紙粘土の特徴を生かした表現」「白一色の世界の面白さ」など、本題材に見合った観点を定めて鑑賞するようにする。</p>	<p>【鑑】 単色（白一色）による表現のよさを味わい自分や友達の表現の工夫などを認め合っている。 (行動観察、ワークシート)</p>

6. 本時の学習 平成28年10月4日(火) 第5校時 図工室

(1) 主眼

前時までに表した「白い惑星」の世界に対して、修正したり付加したり活動を通して、白で統一された造形表現のよさを感じ取りながら、身近材料を効果的に使って自分のイメージに合ったものを立体的に表現することができるようにする。

(2) 準備

- ① 教師 液体粘土、軽量紙粘土、アクリル絵の具(白)、新聞紙、ダンボール、布、身近材料 針金、粘土ベラ、ペンチ、ダンボールカッター、接着剤 など
- ② 子ども 身近材料、はさみ、接着剤、ぞうきん

(3) 本時でめざす子ども像

- 液体粘土や軽量粘土の特性を生かして、つくったり、つくりかえたりして、自分だけの「白い惑星」の世界の表現を追求する子ども。 **【創造的な技能】**

(4) 展開

主な学習活動	○ 指導の工夫 【観点】評価規準（評価方法）
<p>1. 前時に表したものを見合い、それぞれのよさをとらえ、本時のめあてを確かめる。【言語活動】</p> <p> 山の感じが出るように布を液体粘土で固めたよ。</p> <p> 針金を丸めているところが、工夫されているね。</p> <p>めあて 自分の想像をさらに広げたり深めたりして、「白い惑星」の世界をつくろう。</p>	<p>○ 表したいことのイメージをさらに広げたり深めたりすることができるように、グループの友達と前時に表したものを互いに見合い、気付いたことやよいと思ったことを話し合う。</p> <p>○ 構成のよさやおもしろさに着目できるように、一方向からだけでなく、いろいろな方向から作品を見るように促す。</p> <p>○ 友達の作品のよさに気付かない子には、教師と一緒に作品を見ながら、よさを見付ける。</p>
<p>2. 「白い惑星」の物語を表現する。</p> <p> タワーを建てたいけど、どうしたら立つのかな。</p> <p> 卵パックがうまく、着かないよ。どうやって着けたらいいのだろう。</p> <p> 針金をもっとくると曲げたいけど、どうしたらいいのだろう。</p> <p> ダンボールがうまく切れない。どうしよう。</p> <p> 細かいところは、液体粘土でぬれないよ。どうしたら白くなるかな。</p>	<p>○ 発想を膨らませながら活動できるように、当初にイメージしていたことが変化してよいことを伝える。</p> <p>◆ 創造的な技能面でのつまずきに対して</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な接着方法については、いくつか提示して、自分の表現方法に合わせて選択させる。 面と面・・・木工用接着剤を付けてしばらく置く 筒と面・・・木工接着剤を使う、穴を空けてさしこむ 筒と筒・・・木工接着剤や両面テープ プラスチックなど・・・化学接着剤 布・・・接着剤で固定する、液体粘土に浸して固める 針金を思うような形に曲げられないときには、ラジオペンチや筒状のものを使って曲げる方法を示す。 段ボールカッターやペンチが思うように使えないときは、子どもと一緒に切り、切り方のコツをつかませるようにする。 白くぬれないときには、部分によって、液体粘土かアクリル絵の具を選ぶようにさせる。 <p>【創】液体粘土や軽量粘土などの特徴を生かしながら、工夫して「白い惑星」を表現している。 (行動観察、ワークシート、作品)</p>
<p>3. 本時の振り返りをし、次時への見通しをもつ。</p>	<p>○ 自分の思いを表すことができた子どもの作品をその思いとともに紹介し、よいところを認め合うようにし、次時の表現活動が意欲的になるようにする。</p>